その日

酒馬蹴史

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
その日

【Ｎコード】
Ｎ４８２６ＢＡ

【作者名】
酒馬蹴史

【あらすじ】
能力の高い人たちに囲まれた「自分」。
その中に存在する無能な「自分」。
なぜ？自分だけが？自分はどうすればいいのか？
苦悩と葛藤の末の「自分」の決断と成長を描いた物語。

自分の周りのそれはもう凄い人たち（前書き）

初めてですので拙い文章ですが読んでいただけると光栄です。

自分の周りのそれはもう凄い人たち

自分の母はそれはもう凄い人だ。
今日もお腹を満たして余りあるほどの食事を手にして帰ってきた。いつか来るその日のために、その余ってしまった食事を大事に保管しておく。それを他の奴らに奪われぬように夜通し監視する。
この癖はいつ頃から身についたものだったか。記憶は定かではないが、確か自分は十分成長していたような気がする。いや、まだそこまで育ちきってはいなかったかも…。

自分の兄弟たちもそれはもう凄い人だ。
あれは蜂たちが活発に活動し始めたころだった。一人の兄弟がその日の食事を携えて久しぶりに母の下へ現れ、食事の半分を置いて帰ったのだ。なんということだ…！自分で手に入れた食事の半分を誰かにあげてしまうとは！
「一人じゃ食べきれないから」
「あなたもあの人の子ね」
母は嬉しそうな顔をして食事を始めた。そうか、あいつは母のこの嬉しそうな顔を見たかったのか。そう考えると食事を置いて帰るという行為の意味もわからなくはない。あいつはそのために母の下に来たのか。
…あれ？何かおかしいぞ？…母の下に？自分もすぐ近くにいるのに？母とも久しぶりの再会だろうけど、だとすれば自分とも…。そんなことを考えながらあいつを見ていたら、帰り際のあいつにひどく睨まれてしまった。まるで人を見るような目じゃなかったよ…。

情けない自分と父親

トンボの交尾があちこちで盛んに行われる季節も過ぎようとしていた。大体あいつらは恥ずかしくないのか！？そう心の中で文句を言いながら、今日も生きていくための食糧を確保しに草むらに出かける。そろそろ食糧になりそうなものが減り始める時期だ。本格的にどうにかしなくちゃ…。

「うおおお！」ザシュッ…

「くそぉぉ！」パシュッ…

まったく捕れる気配がない。捕れる気もしない。聞こえてくるのは空を斬ってその先にある草を切断する音だけだ。

なんでだろう…なんで自分だけが…？自分の兄弟たちの、いわば“生きていくために必要な能力”の高さを知らされ、またそれが低い自分が兄弟たちから軽蔑されている。そんな現実を目の前に突きつけられて、もはや頼みは母しかいない。そう考えて家に帰った自分を見て、母は言った。もちろん大量の食事を抱えて。

「どうしたの？ずいぶん疲れてるみたいね」

「いや…今日もダメだった…」

「そう…」

気まずい沈黙が家に流れた。しかし自分は母が手に抱えている食事を見て安心していた。なんて情けないんだろう。母は食事を床に置いて言った。

「あなたのお父さんはね、それはもう凄い人だったのよ。」

自分は父親を知らない。自分が母から産まれたときにはもうこの世にはいなかった。自分たちの種族はそういうものらしいと、この前友人たちが話していた。

「母さんより凄かったの？」

「私なんかより全然よ。いつも食べきれないほどの食事を持って

帰ってきては腐らせてしまってたんだから。」
驚愕した。自分の父親がこんなにも凄い母よりも凄かった、という事実にではない。
「え…？食事って腐るの？」
「それは腐るわよ。大体が死骸なんだから。そうねぇ…普通は１日経てば腐るわ」
最悪の事実だった。今まで大事に保管していた食事たちは今ごろはすべて腐ったゴミと化しているのか。今までの努力はなんだったんだ？
母から自分の父親の話を初めて聞いたというのに、自分はそんなことばかり考えていた。つくづく、本当に情けない男だ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4826ba/

その日

2012年1月14日08時47分発行